

Medical Tribune

2016
11/03
Vol.49 No.41



思春期の性同一性障害に理解を

思春期の性同一性障害(GID)はさまざまな問題、悩みを持つが、告白できない割合が高いため、教員は正しい知識を持ち、学校と医療機関が連携して対応する必要があるとGID学会理事長で岡山大学大学院保健学研究科教授、同大学病院ジェンダークリニックの中塚幹也氏が述べた。

9割が中学生までに性別違和感

トランスジェンダーは「性の自己認識(性自認、心の性)」と「身体の生物学的性(身体の性)」とが一致しないため性別違和感を持つ状態であり、医療的な対応が必要な場合の診断名としてGIDがある。女性の心が男性の身体に閉じ込められた状態をmale to female(MTF)、男性の心が女性の身体に閉じ込められた状態をfemale to male(FTM)と呼ぶ。

同大学病院ジェンダークリニックを受診したGID 1,167例(MTF 431例、FTM 736例)のうち、56.6%が小学校入学以前に、89.6%が中学生までに性別違和感を持っていた(表)。

また、GID 1,452例の調査では、自殺念慮が58.0%、自傷・自殺未遂が30.0%に見られ、小学・中学校でも自傷・自殺未遂が33.3%に見られた。

同クリニックでMTF 32例を対象に行った性別違和感の告白についての調査では、家族の中で性別の悩みに気付いていたのは37.5%で、支援してくれたのは、その3分の1にすぎなかった。小学生時代の性別違和感の悩みについて「絶対に伝えない」

「迷って伝えなかった」との回答の合計が87.5%に上るが、子供のころに家族や周囲に伝えることができなかったことを59.4%が後悔していた。

「サポートチーム」の設置も

2014年に文部科学省が行った調査では、GIDで悩み、学校に相談している児童・生徒が全国で少なくとも606人存在したことから、同省は2015年に教育委員会などに対しGIDの児童・生徒へのきめ細かな対応を実施するよう通知、医療機関などと相談の下、「サポートチーム」の設置などを検討することを求めた。

日本精神神経学会は、望まない性の身体への変化による不利益を回避するため、2012年にGIDに関する診断と治療のガイドラインを改訂し、ジェンダークリニックで経過を観察し特に必要性が認められた者に対し、性ホルモン療法開始年齢を15歳に引き下げ、それ以前でも二次性徴

抑制治療が可能であると記載した。中塚氏は「GIDの約9割が中学生までに性別違和感を持ち、自殺念慮が約6割に認められるが、約9割は告白できずにいる。そのため、教員はGIDについて正しい知識を持ち、学校と医療機関が連携し、きめ細かい対応を行っていく必要がある」とした。

〈表〉岡山大学ジェンダークリニックを受診したGID例(1,167例)の性別違和感を自覚し始めた時期

	89.6%	全症例(1,167例)	MTF(431例)	FTM(736例)
小学校入学以前		660(56.6%)	145(33.6%)	515(70.0%)
小学校低学年		158(13.5%)	67(15.5%)	91(12.4%)
小学校高学年		115(9.9%)	56(13.0%)	59(8.0%)
中学生		113(9.7%)	74(17.2%)	39(5.3%)
高校生以降		92(7.9%)	77(17.9%)	15(2.0%)
不明		29(2.5%)	12(2.8%)	17(2.3%)

(中塚幹也氏提供)



Medical Tribune

2016
11/03
Vol. 49 No. 41

AHA

スタチンと心疾患治療薬の併用に指針 薬物相互作用の管理で筋毒性を回避

(表) 心疾患治療薬とスタチンの相互作用の管理における臨床的推奨 (日本未発売の薬剤は除く)

心疾患治療薬	スタチン	臨床的推奨	心疾患治療薬	スタチン	臨床的推奨	
アミオダロン	シンバスタチン	シンバスタチンの用量を20mg/日に制限	ジルチアゼム	シンバスタチン	シンバスタチンの用量を10mg/日に制限	
アムロジピン	シンバスタチン	シンバスタチンの用量を20mg/日に制限	ナイアシン	アトルバスタチン	臨床的に必要な場合は徐放性ナイアシンを2g/日まで使用可能	
コルヒチン	アトルバスタチン	併用時は筋毒性についての注意深いモニタリングが推奨される		フルバスタチン	フルバスタチン	即放性ナイアシンの用量を1g/日以下に制限する
	フルバスタチン			フルバスタチン		
	ピタバスタチン			ピタバスタチン		
	プラバスタチン			プラバスタチン		
	ロスバスタチン		ロスバスタチン			
シクロスポリン エベロリムス シロリムス	シンバスタチン	併用は避ける	タクロリムス	アトルバスタチン	アトルバスタチンの用量を10mg/日に制限	
	アトルバスタチン			アトルバスタチンの用量を10mg/日に制限		
	フルバスタチン			フルバスタチンの用量を40mg/日に制限		
	ピタバスタチン			併用は避ける		
	プラバスタチン			プラバスタチンの用量を40mg/日に制限		
ロスバスタチン	ロスバスタチンの用量を5mg/日に制限					
シンバスタチン	併用は避ける	ベラパミル	シンバスタチンの用量を10mg/日に制限			

(Circulation 2016年10月17日オンライン版)

心疾患患者においては、スタチンと心疾患治療薬との相互作用リスクがしばしば議論の対象となるが、同リスクを管理し低減させることは可能である。米国心臓協会(AHA)はこうした相互作用管理のための指針をScientific StatementとしてCirculation(2016年10月17日オンライン版)に発表した。

薬物動態を理解して相互作用を管理

スタチンはしばしば他の心疾患治療薬との併用が必要となるが、薬物相互作用が生じると薬物動態(PK)的にはシクロソームP450(CYP2C9、CYP3A4など)、P糖蛋白質(P-gp)、有機アニオントランスポーターの阻害により吸収・分布・代謝・排泄が変化、血中スタチン濃度の上昇を来し筋毒性リスクが高まる。しかし、臨床的に重大な相互作用はかなりの程度予防でき、薬物相互作用の機序、程度、想定される帰結を正確に理解しておくことが患者の安全性を高める鍵となる。そこで、同指針ではスタチンと心疾患治療薬との相互作用を管理し患者の安全性を確保するための指針を提示している(表)。

カルシウム拮抗薬については、アムロジピンではlovastatinまたはシンバスタチンとの併用でスタチン血中濃度は若干上昇するが併用を考慮してよい。

ジルチアゼムとアトルバスタチン

との併用ではスタチン血中濃度は若干上昇するが併用は妥当である。ジルチアゼムとlovastatinまたはシンバスタチンとの併用、ベラパミルとlovastatinまたはシンバスタチンとの併用では血中スタチン濃度は中等度に上昇することから、ベネフィットがリスクを上回ると考えられる場合は併用を考慮してもよい。

抗不整脈薬では、ジゴキシンとスタチンとの併用は妥当であるが、唯一の例外として、高用量アトルバ

スタチンとの併用でジゴキシンの毒性作用が増強すると報告されており、これについては十分なモニタリングが必要である。

アミオダロンについては、ロスバスタチン、アトルバスタチン、ピタバスタチン、フルバスタチン、プラバスタチンとの併用は妥当。lovastatinまたはシンバスタチンとの併用も考慮してよいが、前者は40mg/日以下、後者は20mg/日以下とすることが推奨される。

JSCO ノーベル賞受賞者 大隅氏が講演

第54回日本癌治療学会(JSCO、10月20~22日)の特別講演では、今年のノーベル生理学・医学賞を受賞した東京工業大学名誉教授の大隅良典氏が登壇した(写真)。

もう一度酵母に問いかけたい

大隅氏は「酵母から始まったオートファジー研究」と題して、自身のこれまでの研究の歩みを紹介。「酵母のオートファジー遺伝子(ATG)の発見により、オートファジー(自食作用)の世界は実はいろいろな意味で一新した。現在は毎年5,000くらいの論文が発表されるほど、非常にホットな分野になっている」と述べた。また、同氏は「最近では研究での最初の疑問であった「何がいったい、いつ、どのように壊れるのか」をもう一度酵母に問いかけたいと思っている」と述べ、「まだまだ発展



途上」とするオートファジーの解明に関して、今後も引き続き取り組む意欲をみせた。

座長を務めた九州大学消化器・総合外科教授の前原喜彦氏は「本学会で大隅先生が講演することが決まった後に、ノーベル賞の受賞が決まった。その逆であれば、本日の講演は到底かなわなかったと思っている。実は中野隆史大会長(群馬大学腫瘍放射線学教授)は、大隅先生の受賞を予想して講演を依頼したとも聞いた」と紹介した。

Medical Tribune

ウェブ版
プレゼント
キャンペーン

賞品多数
詳しくは
25ページの広告を!

今週の話

がん治療の進歩に伴いOnco-Cardiologyが必要に 3

糖尿病薬物療法トピックス①
糖尿病薬の心血管安全性7試験を“中間総括” 18

国内ニュース

糖尿病眼・連携手帳の併用で連携を 日本糖尿病眼学会 6

次世代の降圧薬 日本高血圧学会 8

がん治療における複合免疫療法 日本臨床免疫学会 13

2020年東京五輪の熱中症対策 日本病院総合診療医学会 16

発汗反応で運動能力を評価 日本発汗学会 22

医療関連死を証明した死後画像診断 日本AI学会 24

海外ニュース

輸血用血液の保存期間で院内死亡率に差なし 2

シリーズ

Journal Scan 9

リレーエッセイ 26

今週のキーワード

オープンダイアログ
(open dialogue: OD) p.19

オープンダイアログ(開かれた対話)とは、統合失調症などの精神疾患に対して、フィンランド西ラップランド地方のケロプダス病院で実践されている治療的な介入の技法である。対人ネットワークを中心に言語的アプローチ(治療的な対話)を行い、治療チームが危機にあるクライアントの自宅に向くなどして危機が解消するまで連日対話を続ける。臨床家はチームで治療に臨み、プロセスにクライアントや家族を巻き込むことで、入院治療と薬物治療を行わずに治療に導く。